

年間報告書

公益財団法人ダイオーズ記念財団
代表理事 大久保 睦 殿

2025年1月26日
武蔵大学 内藤知加恵

【研究課題名】「日本における障がい者インクルージョン・チャンピオンの認知と行動の
解明」

【研究代表者】武蔵大学経済学部経営学科 准教授 内藤知加恵

【共同研究者】クイーンズ大学 ダニエル・サマシュ (Daniel Samosh, PhD) Assistant
Professor, Employment Relations Studies, Faculty of Arts & Science, Queen's University
Kingston

【助成事業期間】2024年1月1日～2024年12月31日

1. 研究概要

本研究は、日本の職場における障がい者インクルージョンにおいて、中心的役割を果たす「障がい者インクルージョン・チャンピオン」に着目する。日本では、障害者雇用促進法に基づき民間企業における障害者法定雇用率の段階的な引き上げが続き、今後も障がいを持つ従業員の比率は高まることが予想される。一方で、障がいを持つ従業員をどのように受け入れるのかという具体的な方策については、手探りの企業も多い。

本研究では、障がいを持つ従業員を「受け入れ、活かし、組織・個人の成果につなげる」、すなわち、障がい者インクルージョンにおいて、キーパーソンになるのが「障がい者インクルージョン・チャンピオン」だと考える。チャンピオンとは、組織変革におけるキーパーソンを意味する語である。近年では、「障がい」を属性の一つと捉え、障がい者のインクルージョンに率先して取り組む者という意味で、チャンピオンという語を用いる研究もある（たとえば、Gould et al., 2022）。本研究の目的は、日本における障がい者インクルージョン・チャンピオンが何を考え、どのように行動するのかを明らかにすることで、部署・組織レベルでの障がい者インクルージョン推進に寄与することである。

本研究は、カナダ・クイーンズ大学のダニエル・サマシュ氏との共同研究である。同氏は、「Disability and Work（障がいと仕事）」を専門分野とする。障がい者インクルージョンの取り組みが進むカナダの視点を取り入れることで、日本の状況を客観的に把握することができる。

2. 研究活動概要

助成期間中に以下の研究活動を行った。

① 調査

実施時期：2月-10月

- 方法：インタビュー調査
- サンプル：16名（障がい者インクルージョンに関わる方）
- 障がい有無：あり7名、なし9名
- 性別：男性12名、女性4名
- 年齢：平均41.25才
- 勤務経験年数：平均18.25年
- 業種

メディア	4名
化学	1名
建設	1名
サービス	6名
製造	1名
小売	3名

- インタビュー時間：20-90分
- インタビュー方法：対面またはZoomオンライン

② 倫理的配慮

本研究は、助成金申請時の所属機関である麗澤大学倫理審査委員会の審査を受けている。インタビューには事前に、インタビュー中に希望があればいつでも中止できること、調査データを使用する際には個人が特定できないように匿名化すること、希望に応じて逐語録を確認できることを説明した。

③ 講義・データ分析

- 4-6月：共同研究者であるカナダ・クイーンズ大学のダニエル・サマシュ氏が来日し、研究打ち合わせを行った。また、滞在中にセミナー&ワークショップと、2件のインタビューを共同で実施した。さらに、武蔵大学、麗澤大学（非常勤）の講義にサマシュ氏が参加し、学生との交流を実施した。武蔵大学での講義の様子は、武蔵大学ゼミブログに掲載した【添付資料①】。
- 8月：内藤がクイーンズ大学（カナダ・キングストン）を訪問し、サマシュ氏と分析および論文執筆に向けた研究打ち合わせを行った【添付資料②】。

- 11-12月：サマシュ氏が再度来日し、分析および論文執筆に向けた研究打ち合わせを行った。また、来日期間中に研究報告会を実施した。
- 全てのデータは文字起こし後に英訳し、研究者間で共有し、定性分析ソフトウェアを使用して分析を行った。

④ 経営行動科学学会 What is disability inclusion at work? Seminar & Workshop 実施

5月11日(土)に、学習院大学において”What is disability inclusion at work? Seminar & Workshop”を実施した【添付資料③④】。内藤とサマシュ氏に加え、大阪経済大学・船越多枝氏、学習院大学・金素延氏が登壇した。経営行動科学学会の会員および非会員に告知を行い、当日は全国から研究者と実務家が参加した。実施後には、当セミナー&ワークショップの様子を記事化し、経営行動科学学会公式noteで公開したほか、全会員向けのメーリングリストで周知した。

⑤ 研究報告会実施

11月23日(土・祝)に東京・赤坂のレンタルスペースにおいて、インタビューに対する報告会を実施し、インタビューおよび対人援助職、計13名が参加した。この報告会は、本研究の進捗報告と意見収集、インタビュー同士の交流を目的に開催した。交流会後は、同意を得た上でメーリングリストに登録し、ネットワーキングの場としている。

⑥ 投稿論文執筆

上記で得られたデータと知見をもとに、現在論文を執筆している。

3. 研究成果

成果は以下の形態で公表予定である。

- ① 海外ジャーナルへの論文投稿(英語)
- ② ワーキングペーパー(日本語)

このほか、インタビュー向けの報告書を作成予定である。

4. 今後の展望

本研究は、「障がい者インクルージョン・チャンピオン」に着目した、本邦初の研究である。組織行動論や経営学分野では、ダイバーシティおよびインクルージョンの属性の一つとして「障がい」を扱う研究が増加している。日本でも、実務において、障がいを持つ従業員数が増加し続けている点を鑑みると、当該分野における学術的関心は今後一層高まることが予想される。

本研究では、障がいを持つ従業員が、組織に受け入れられ、活躍できるための「キーパーソン」であるチャンピオンの、認知・行動に着目した。学術的な貢献はもちろん、チャンピオンの認知・行動が解明されることで、企業における管理者の研修プログラム開発や、政策提言に繋げることが期待される。

引用文献

Gould, R., Mullin, C., Harris, S. P., & Jones, R. (2021). Building, sustaining and growing: disability inclusion in business. *Equality, Diversity and Inclusion: An International Journal*, 41(3), 418-434.